生活

健やかな学習・生活環境を実現する。

生活-01＜心持ちにフィットする、学び心地・居心地の良い場所＞

生活-01-01_過ごしたい場所を選べる

心持ちに応じて、学習場所を選択できるようにするためのアイディア

- 図書室を中心に、様々な過ごし方ができる場所がある
  （福島県大熊町立学び舎ゆめの森）
- 生徒が自分で居場所を知らせる「イマここボード」
  （岐阜県岐阜市立草潤中学校）
- 教室前の廊下にカウンターテーブル
  （広島県福山市立常石ともに学園）
- 廊下のカウンターで勉強できる
  （富山県富山市立芝園小学校・芝園中学校）

生活-01-02_一人にもなれる場所

集団との距離を調整できる場所のアイディア

- 廊下に「DEN」やベンチがある
  （千葉県柏市立田中北小学校）
- 廊下一人用ソファ
  （広島県福山市立想青学園）
- 図書室のテント
  （岐阜県岐阜市立草潤中学校）
- オープンスペースにある静かなコーナー
  （千葉県千葉市立美浜打瀬小学校）

生活-01-03_クラスへ入りづらい子も安心できる場

普通教室とは違うもう一つの居場所づくりのアイディア

- 自分にあったペースで学習・生活できる場
  （広島県府中市立府中第一中学校）
- 気持ちを切り替えることができる場
  （東京都八王子市立高尾山学園）

生活-02＜ユニバーサルな環境整備＞

生活-02-01_誰もが利用しやすいトイレ

トイレの在り方を見直すアイディア

- 性別を限定しないトイレを用意
  （奈良県香芝市立香芝東中学校）
- 様々なスタイルのトイレ
  （千葉県柏市立田中北小学校）

生活-02-02_明快な動線計画

多様なニーズに配慮した教室配置のアイディア

- 車椅子を使用する児童生徒の動線をコンパクトに
  （広島県福山市立想青学園）
- 教室までの道筋を直感的に認識しやすいように配置
  （千葉県柏市立田中北小学校）

生活-03＜普通教室＋αのクラスの拠点＞

生活-03-01_普通教室近くのクラスの拠点となる空間

普通教室とは別の生活スペースを確保することで、教室内での学び心地を高めるアイディア

- 教室の横のロッカールーム
  （北海道安平町立早来学園、京都府京都市立開建高等学校、広島県福山市立想青学園）
- 普通教室と多目的スペースの仕切りをホワイトボード付きロッカーに
  （京都教育大学附属桃山小学校）
- 教室内にクラスのためのもう一つの空間を生み出す
  （千葉県柏市立田中北小学校）

生活-04＜過ごしやすい室内環境＞

生活-04-01_自然の力も取り入れた明るい空間

温かみのある空間づくりのアイディア

- 自然光で明るい学校にする
  （広島県福山市立想青学園、茨城県つくば市立みどりの学園義務教育学校）
- 適温に導く校舎
  （岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校）

生活-05＜教職員・多様な専門職が心地よく働ける環境＞

生活-05-01_目的に応じて場所を選べる職員室

職員室をフル活用するためのアイディア

- 一人で集中作業をする場所や、立ったまま打ち合わせできる場所
  （広島県福山市立想青学園）
- 業務の実態に合わせて職員室のレイアウトを変更
  （東京都板橋区立板橋第十小学校）
- 専門スタッフの居場所
  （広島県府中市立府中学園）
- 事務職員と教職員の連携がとりやすい配置
  （京都府京都市立開建高等学校）
- 教室近くでも教員同士の打ち合わせが可能
  （広島県府中市立府中学園）

生活-05-02_機能別の職員室

職員室の機能を、校内に分散して設ける際のアイディア

- 教室の近くにある教職員スペース
  （茨城県つくば市立みどりの学園義務教育学校、ドルトン東京学園中等部・高等部）

生活-05-03_教職員のくつろぎ空間

教職員のパフォーマンスを支えるためのアイディア

- 職員室内とゆるやかにつながる談話スペース
  （千葉県柏市立田中北小学校、広島県福山市立想青学園）
- 教職員のリフレッシュ&リカバリーの場
  （東京都八王子市立いずみの森義務教育学校）

生活-01-01_過ごしたい場所を選べる

図書室を中心に、様々な過ごし方ができる場所がある

福島県大熊町立学び舎ゆめの森 ｜ 学びの舎ゆめの森では、校舎内で教科や学年の垣根を設けず、大きな吹抜けの図書ひろばを中心に、形も大きさもバラバラな11のエリアを繋いで一つの空間を構成している。子どもたちが自由に学びをデザインできる空間づくりを目指している。

広場を囲むように、それぞれが選んだ場所で学習活動を進めている

校舎内には様々な形状の椅子や机を置き、
どこでも授業が行えるように
可動式ホワイトボードもある

本棚の下が児童生徒の学習の場となる

校舎の中心には、すり鉢状に本棚が組み合わされ、１階から２階にかけて全体が大きな広場になっている。広場のいたるところに、腰掛けたり学習したりするスペースが配置されており、学習・読書空間の多様な選択肢を生み出している。

実現プロセス：

大震災から12年後の新校舎

・東日本大震災後、福島県大熊町立学校は会津若松市で学校教育を行ってきた。2023年（令和５年）４月から大熊町の地で学校を再開し、８月25日から新しい校舎での学びが始まっている。

・義務教育学校、認定こども園、放課後児童クラブが併設され、一つの空間を共有している。

・構想段階においては、当時の町長や教育長から設計者へ「どこにもない建物で、新しい教育を」という方針が示され、「なぜ教室は四角かったのか？」と固定概念から問い直し、三角のフレームを組み合わせ、家具についても一体的に検討し、公園のような遊びながら学べる空間を創り出していった。

子どもたちが学習場所を見つける

・子どもたちが机に座ってじっと考えるだけでなく、身体を思い切り使って五感で感じて考えられる環境をつくることを目指している。

・各教室の大きさや形はバラバラで、隣の部屋とくっつけて使ったり、静かで落ち着いた場所を見つけたり、児童生徒一人一人が好奇心を持って探究できる場所を用意している。また、開放的な広場からそれぞれの活動場所を曖昧に繋いでいくことで、子どもたちの活動が混じり合うような配置としている。

・児童生徒と教員は、毎朝、その日の学習内容や心持ちに適した学習場所を話し合って決める。

学び-05-01_柔軟な学びの場と居心地よい読書空間の両立　図書室を中心に学校施設全体を計画

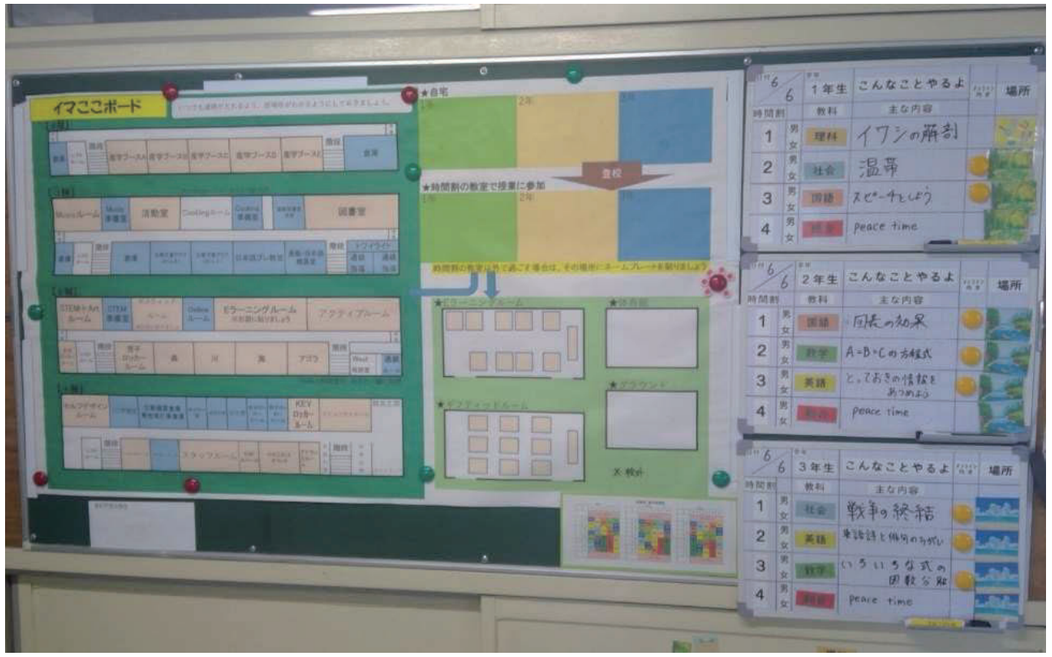
「るんるん対話の森」エリアの小空間で
タブレットを使い学習している様子

「ふむふむ研究所」エリアの一角で
個別学習に取り組む様子

生活-01-01_過ごしたい場所を選べる

生徒が自分で居場所を知らせる「イマここボード」

岐阜県岐阜市立草潤中学校 ｜ 生徒がその日の時間割に応じて選択した居場所を掲示板上に表示しておくことで、校内に用意した多様な居場所を安心して活用する。



「イマここボード」にマグネットのネームプレートを張り付け、生徒が自分の居場所を記す

その日の授業ごとに校内外の選択肢から生徒が授業を受ける場所を決め、廊下に設けられた「イマここボード」に自分のネームプレートを張り、教職員や他の生徒に居場所を知らせている。

実現プロセス：

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）として開校

・草潤中学校は、築40年の元小学校校舎（RC造４階建て）を改修して、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）として、2021年度（令和３年度）に開校した。全校生徒は40名（2023年度（令和５年度））。

・校内には、既存の学校用の机や椅子等の代わりにオフィス用の家具を多く取り入れた普通教室の他、一人学習用のブース、他の生徒と一緒にソファでくつろげる空間、リラックスしやすい配慮がされた図書室等、授業中にも利用可能な居場所の選択肢を用意している。

・各教室で行われる授業にはオンラインで参加することが可能で、自宅での学習を中心にしたり、登校を中心としたりするなど、登校のスタイルは生徒自身で選択している。一方で、誰がどこにいるのか把握が難しくなり、安全面で問題が出てきてしまうことも予想されるため、「イマここボード」を導入した。

多様な居場所の選択肢

・生徒は、「イマここボード」にマグネットのネームプレートを張り付け、自分の居場所を記しておく。登校したら、「自宅」にある自分のネームプレートを「時間割の教室で授業に参加」もしくは、校内の教室以外の場所へ移動させる。

普通教室

２種類の生徒机や、パーテーションにもなる可動式のミニホワイトボードなどを配置。典型的な学校の普通教室から受ける印象に近づけないために、オフィスのデザイン等も参考にしながら家具を選定した。

Eラーニングルーム

ブースで区画されている一人用のスペースがある。

図書室

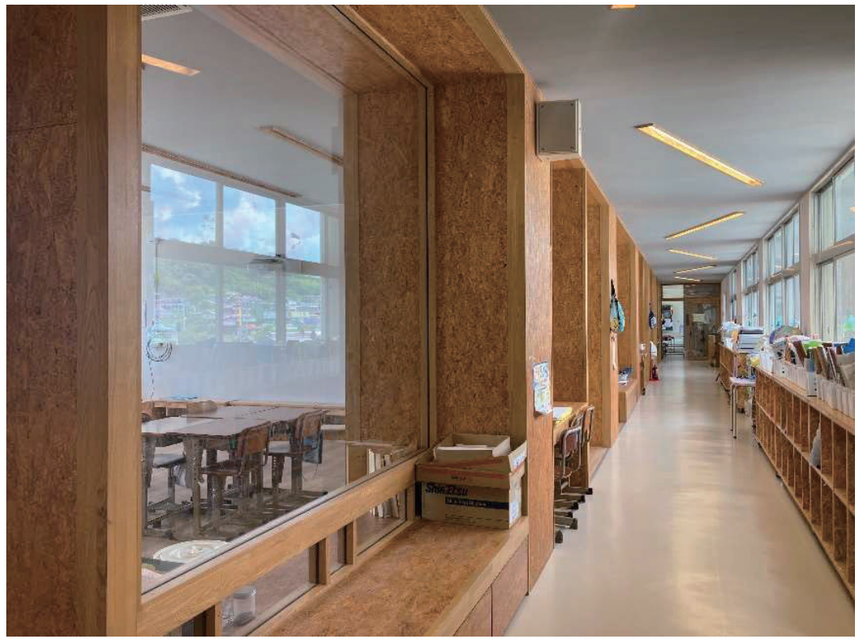
リラックスして本を読めるクッションやハンモック、他人の目を気にしなくてもよいテントやハイバックのソファもある空間。

生活-01-02_一人にもなれる場所
図書室のテント

生活-01-01_過ごしたい場所を選べる

教室前の廊下にカウンターテーブル

広島県福山市立常石ともに学園 ｜ 既存の小学校校舎を大規模改修する際に、普通教室と廊下の間の壁を大きなガラス窓にして、教室の内側と廊下との見通しを確保した。また、柱と柱の間のスペースが机の高さのカウンターやベンチになっている。



普通教室と廊下の間は大きなガラス窓

机の高さのカウンターは、児童が選んで学習する場所にもなる

学び-03-01_主体的な対話のための工夫　対話中心の授業のための教室

廊下のカウンターで勉強できる

富山県富山市立芝園小学校・芝園中学校 ｜ 大きな吹き抜けに面した場所などに、勉強できるスペースがある。

中学校：アトリウムに面したカウンターで、勉強することができる

小学校：広い廊下にある自習スペース

小学校・中学校共通の図書室の隣にある自習スペース

学び-01-01_ICTで複線型の授業を実現　オープンな普通教室で、ICTを活用した複線型の授業を実施

生活-01-02_一人にもなれる場所

廊下に「DEN」やベンチがある

千葉県柏市立田中北小学校 ｜ 校舎内の廊下に７か所の小さな居場所「DEN」があり、各場所で色やベンチの形状が異なる。休憩時間にちょっと座って、一人で休んだり、友達とおしゃべりしたりすることができる。

廊下の柱の横のくぼみ部分がベンチ
「DEN」の色は、開校前に児童にアンケートを取って決めた

有機的な形状のベンチ

向かい合っておしゃべりができる空間

ポイント：居場所

学校では、クラスの拠点となる場所や「みんな」で居られる場所だけでなく、一人になれる場所も必要。児童生徒が集中しやすい場所、過ごしたい場所を自分で選べることで、学習も豊かになる。

廊下一人用ソファ

広島県福山市立想青学園 ｜ 普通教室前のオープンスペースにある一人用ソファは、音を遮ることができる壁に囲まれており、座ると静かに過ごせる。

音を遮断できる一人用ソファ

図書室のテント

岐阜県岐阜市立草潤中学校 ｜ 図書室にテント・ハンモック・一人用ソファ等を配置して、生徒一人一人が居心地の良い場所を選ぶことができるようにしている。

図書室の様子

場所の説明：

・校内で生徒が最も利用している部屋が図書室。一人一人区切られている空間より、その時の気持ちに応じて、一人で過ごしたり仲間と一緒にいることもできたりする柔軟な利用ができる場所に居心地の良さを感じる生徒が多い。

生活-01-01_過ごしたい場所を選べる　生徒が自分で居場所を知らせる「イマここボード」

生活-01-02_一人にもなれる場所

オープンスペースにある静かなコーナー

千葉県千葉市立美浜打瀬小学校 ｜ オープンスペースに、棚で囲われた居場所をつくり、支援児童が、教室の様子をうかがいながらも、落ち着いて過ごせるスペースを設けた。

普通教室の横にオープンスペースがあり、可動式の家具等を使用して、オープンスペースに囲われた場所をつくり、居場所としての機能を高めている。さらに、そこに学習面での困難や行動面での多動性などが見られる児童（以下「支援児童」という。）が使用できる小空間を設けた。

実現プロセス：

支援児童が落ち着いて過ごせるスペースづくりについて研究者へ相談

・美浜打瀬小学校においては、支援児童が増加していた中、教職員の間で、支援児童が落ち着いて過ごせるスペースを普通教室付近に求める声があがっていた。そうした状況をきっかけに、もともと学校と継続的なつながりがあった研究者が入り、居場所づくりを行うことになった。

オープンスペースでの居場所づくりの工夫

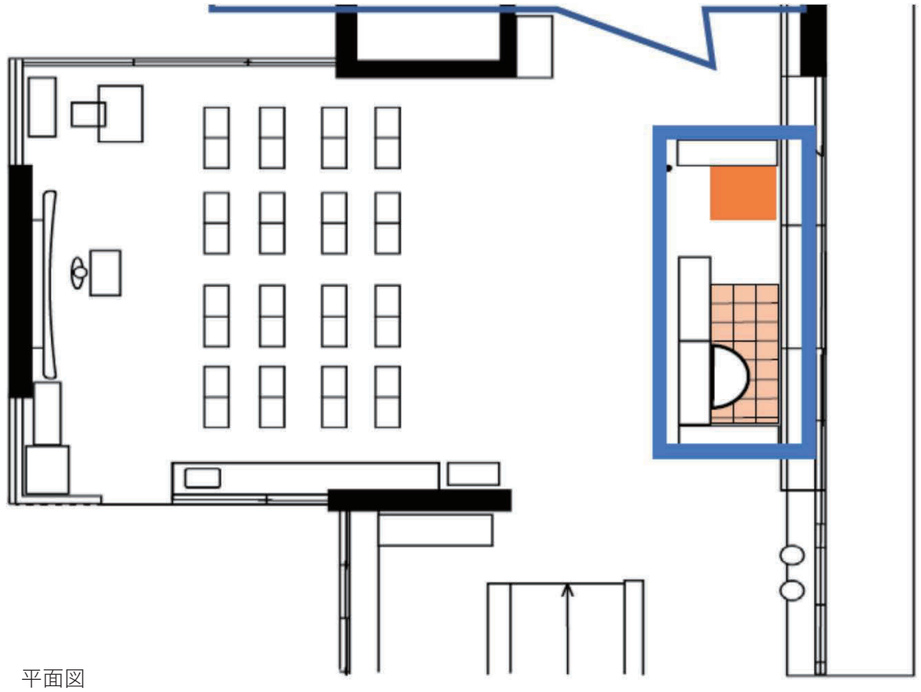
・当初は、担任の教員が、授業中に子どもたちの視線が向かない教室の後ろのオープンスペースに、半円形のテーブルとマットを置いて座れるようにしていたが、その場所に支援児童が長く座ることはなかった。

・そこで、オープンスペースの一部をロッカー等の可動式家具で囲い、支援児童が興味を持つような掲示物を作成して掲示した。また、支援児童は教室内の騒がしさに対して苦手意識があったことから、パイプユニットを使って作成した小空間を置くこととしたところ、支援児童はその場所で読書などをして過ごすことができるようになった。

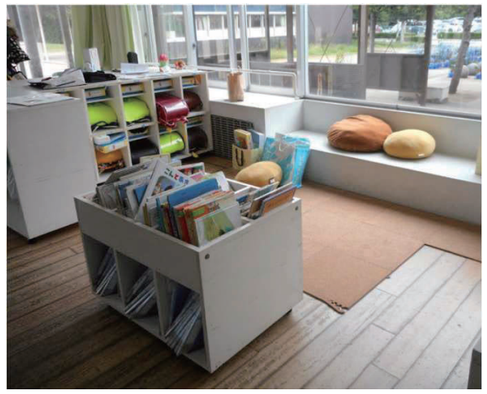
・担任の教員は、支援児童が小空間の中で過ごす様子を、普通教室から確認することができる。

・以前は、クラスの他の児童が支援児童をサポートする関係性であったが、支援児童からもクラスの他の児童に声をかけて遊べるようになり、お互いに尊重しながら一緒に活動ができるようになった。

出典：橋本都子、角田静香、上野佳奈子、渡邊真之佑、倉斗綾子「オープンプラン小学校における児童の居場所づくりに関する研究 －特別な教育的支援を必要とする児童を対象として」『日本インテリア学会論文報告集』29号、日本インテリア学会、2019年、31-38頁



平面図



マット、クッションの設置

小空間の中で本を読む様子

学び-01-02_扉や壁を取り払う　普通教室とつながるオープンスペース
環境-03-02_音環境　十分な吸音処理をする

生活-01-03_クラスへ入りづらい子も安心できる場

自分にあったペースで学習・生活できる場

広島県府中市立府中第一中学校 ｜ 通常の机と椅子に加えて座卓や畳のスペースなども設けたスペシャルサポートルーム（校内教育支援センター）において、生徒一人一人が学習しやすい場所を選ぶことができる。

スペシャルサポートルームは、不登校傾向のある生徒が利用する場所。担当の教員が配置され、生徒一人一人の学びをサポートしている。

一人一人が学習しやすい場所を選ぶ

オンラインで授業に参加する

集団が苦手な生徒が安心できるように
間仕切りで視線から守られた空間を確保

気分転換用の遊び道具もある

実現プロセス：

校舎内に学校らしく見えない教室をつくる

- 県及び市の教育委員会では、通常の教室では不登校傾向のある生徒であっても、その子の特性に応じた空間を提供することで、自分の強みを知り、活かす力や苦手な場面で援助を求められる力を育むための環境づくりとして、中学校校舎内に学校らしく見えないスペシャルサポートルームを整備する取組を推進。
- 府中第一中学校では、昇降口から近い既存教室をスペシャルサポートルームにリニューアルした。各教室で行われている授業をオンラインでつなぎ、スペシャルサポートルームからの授業参加も可能。
- 通常の教室とは異なる過ごし方ができるよう、床はカーペットとし、通常の机と椅子に加えて、座卓や畳のスペースを用意している。室内には、生徒が好きなキャラクターグッズを飾ったり、気分転換用の遊び道具を準備したりもしている。

生活-01-03_クラスへ入りづらい子も安心できる場

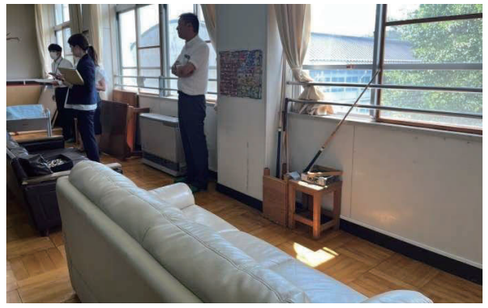
気持ちを切り替えることができる場

東京都八王子市立高尾山学園 ｜ 学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）である高尾山学園では、授業中のみ使用可能な「プレイルーム」を設け、休憩スペースや遊び道具を利用して過ごすことができる。

「プレイルーム」の入り口

「プレイルーム」の室内

畳スペース


ソファ

ボードゲームも利用できる

遊び道具も豊富に用意している

卓球台

同級生などと一緒に遊べる場所

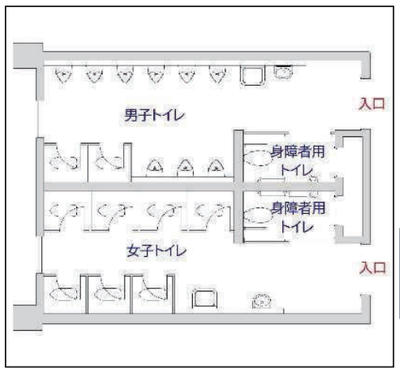
・学校に通うことへの不安を感じている生徒が多い高尾山学園では、生徒が登校しようと思えるような工夫の一つとして、授業時間中であっても教室以外に安心して過ごせる居場所をつくりたいとの考えから、「プレイルーム」を整備した。
・普通教室２つ分の大空間に、くつろぎやすいソファや畳のスペースをつくり、同級生と卓球やボードゲーム等でリフレッシュできる環境を用意するなど工夫している。

生活-02-01_誰もが利用しやすいトイレ

性別を限定しないトイレを用意

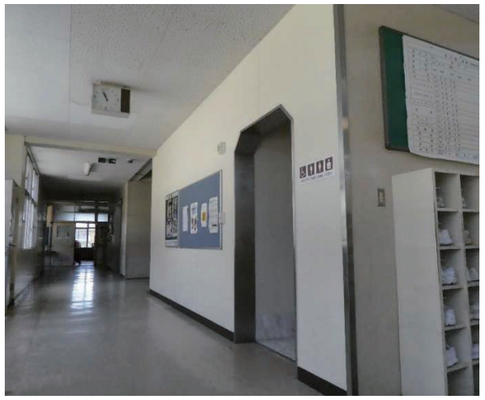
奈良県香芝市立香芝東中学校 ｜ トイレを改修する際に、自認する性と身体の性に違和感がある人にとっても使いやすいよう、性別に関係なく誰もが利用しやすい「だれでもトイレ」を設置。

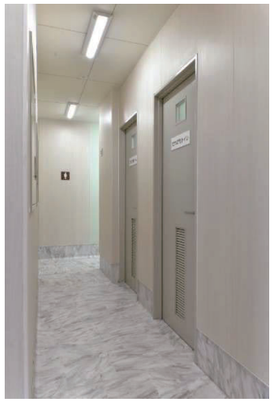
改修前

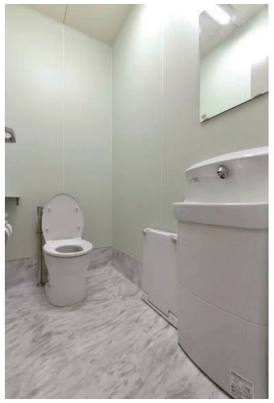


改修前は、扉が無く廊下からトイレ内部が丸見えの状態だった

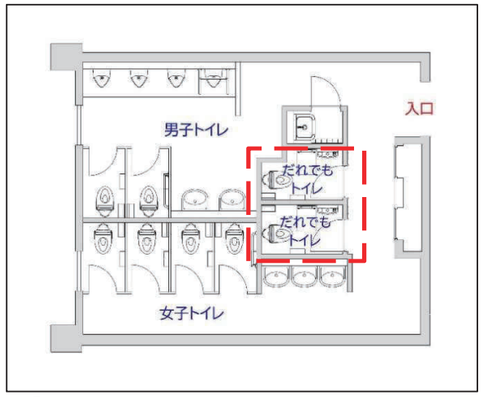
改修後



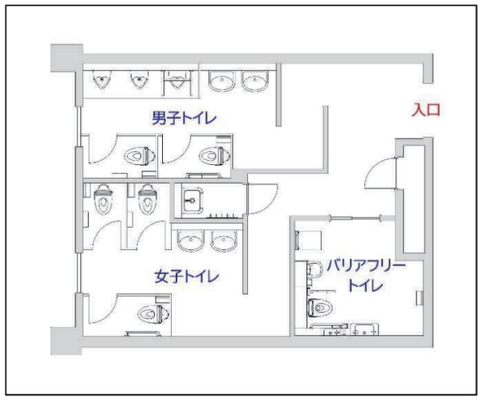




改修し、廊下に面した入口を一つにし、外からどのトイレに入ったかがわからないようになった



「だれでもトイレ」を２か所設置した



車椅子使用者等を含めて使用できる
バリアフリートイレを設置した

実現プロセス：

- 香芝東中学校では、校長のリーダーシップで、制服についての性差を無くすなど、性別に関係なく学校生活を楽しめるよう、見直しを進めていた。
- 市の施設担当者は、当時の教育長から、トイレの洋式化やバリアフリートイレの整備と併せて、「だれでもトイレ、普通に誰でも使えるトイレ」の整備についての提案を受けたため、性の多様性に配慮したパブリックトイレについて学び、事例視察をかさね、その整備内容について検討した。
- トイレの入り口は全体で一つとし、手前に「だれでもトイレ」やバリアフリートイレを設置した。
- 生徒へのトイレ改修後のアンケートでは、だれでもトイレが使いやすいという意見もある一方で、だれでもトイレの利用に抵抗があるという意見もあり、市において、今後の学校トイレの改修計画で改善を図っていく予定。

ポイント：整備プロセスが学びになる

この事例では、施設整備が自治体担当者の学びのプロセスにもなっている点が特徴だといえる。特別なトイレを設けるのではなく、ジェンダーに紐づけられずに普通のトイレを使用できることだと捉え、整備されたのがこのトイレである。

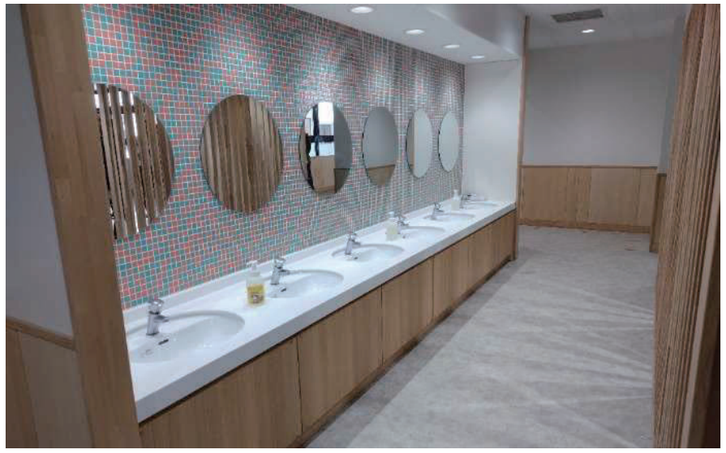
生活-02-01_誰もが利用しやすいトイレ

様々なスタイルのトイレ

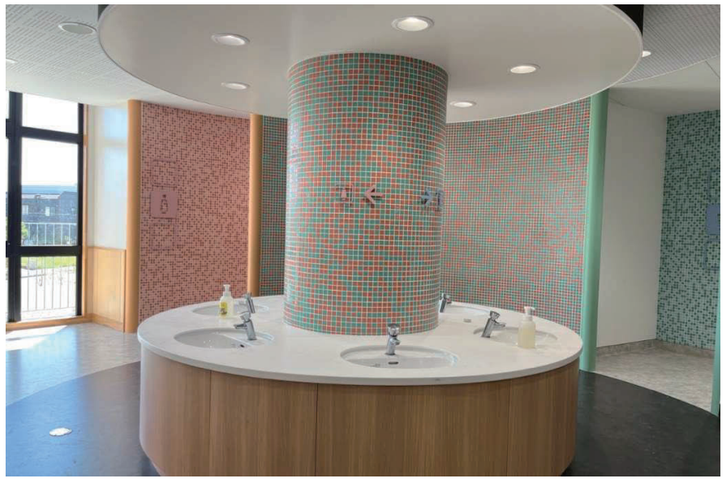
千葉県柏市立田中北小学校 ｜ 各フロアに３か所のトイレエリアがあり、それぞれ異なった形で男子トイレ・女子トイレ・だれでもトイレ・バリアフリートイレ・手洗い場を配置している。また、場所によって色合いも異なっている。学年が変わるごとに、子どもたちに気持ちの変化を生んでいる。

色合いの異なるトイレを各階に複数設置

・新築校舎の計10か所あるトイレエリアの設計について、色や配置の工夫をしている。
・トイレの入り口の外に男女共通の手洗い場を設け、各フロアの３か所それぞれの形状に違いを持たせている。また、フロアごとに色を変えることで、各学年で日常的に使用するトイレエリアの雰囲気が変化するよう工夫されている。
・全てのフロアには、だれでもトイレとバリアフリートイレが設けられている。



トイレエリア前の手洗い場①



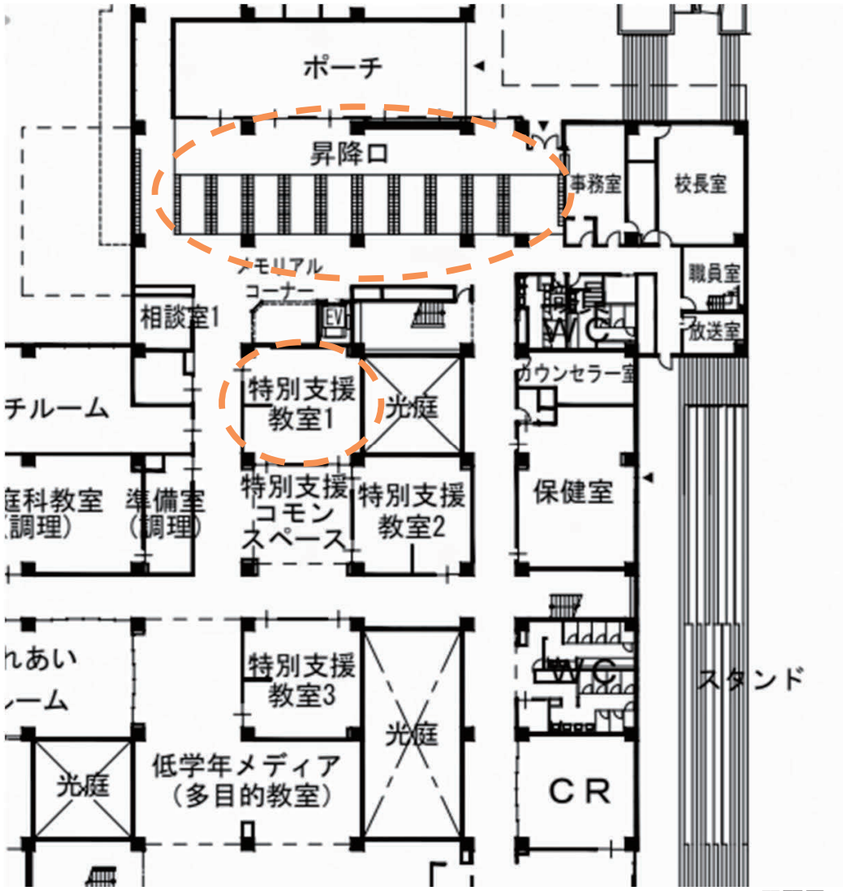
トイレエリア前の手洗い場②

性別に関係なく使用できるだれでもトイレ

生活-02-02_明快な動線計画

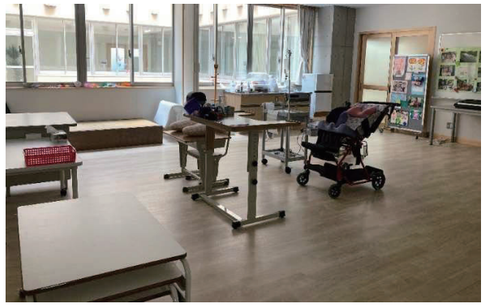
車椅子を使用する児童生徒の動線をコンパクトに

広島県福山市立想青学園 ｜ 昇降口の近くかつエレベーターの近くに特別支援教室を配置することで、車椅子を使用する児童生徒の送迎や他の教室等（普通教室、特別教室）への移動の負担を軽減している。



平面図

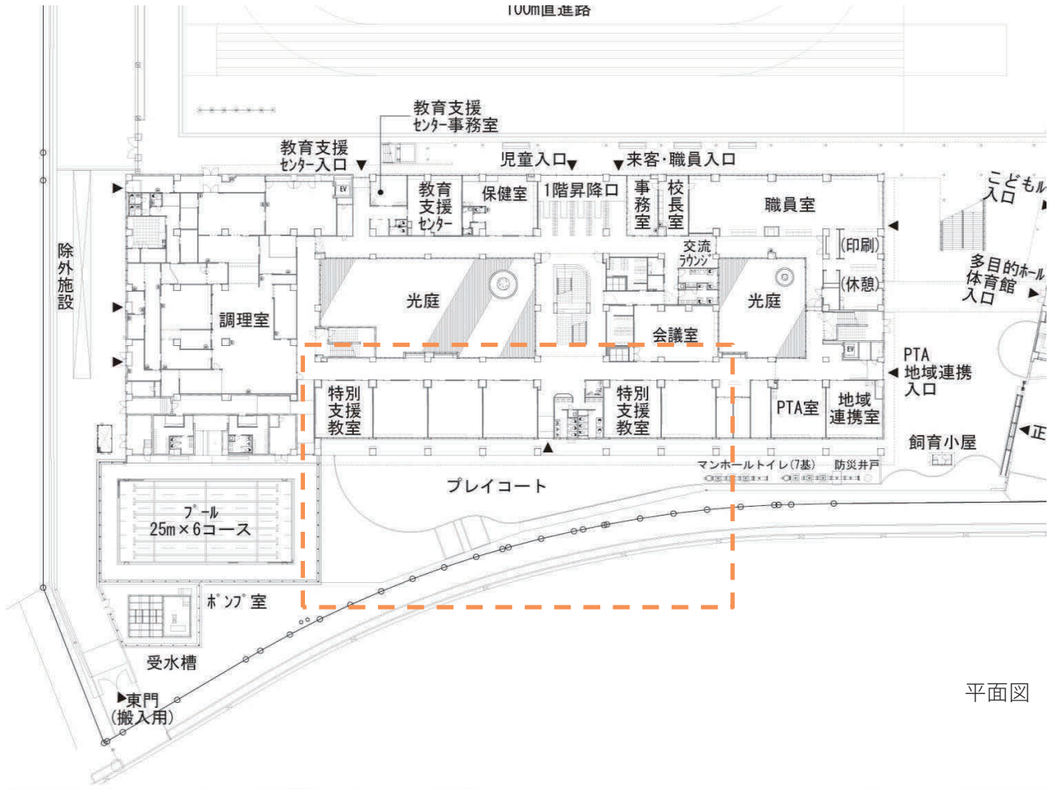
フラットな昇降口



特別支援教室（肢体不自由）
昇降口・エレベーターの近くに配置

教室までの道筋を直感的に認識しやすいように配置

千葉県柏市立田中北小学校 ｜ 昇降口から見通しのよい１階に特別支援学級の教室を配置し、教室への道筋を直感的に理解しやすい配置にしている。教室のすぐ前に運動ができるプレイコートがあり、また、２階～４階にある特別教室等は階段の近くに配置されている。他の普通教室も２階～４階にあるため、特別教室への移動の際に特別支援学級の教室の前が動線となることがないよう、教室配置の工夫をしている。



平面図

特別支援教室はプレイコートに面している

プレイコートで、すぐに運動ができる

学び-05-01_柔軟な学びの場と居心地よい読書空間の両立　校舎の中心部にあるラーニングセンター